

国語学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成26年11月〇日 (〇) 〇校時

2 学年・組 第1学年〇組

3 指導事項

(1) 書くこと ア

- ・ 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ウ)

- ・ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

4 単元名 調べたことを報告しよう レポートにまとめる

5 言語活動 図表などを用いた説明の文章を書くこと。

6 単元の評価規準と目指す生徒の具体的な姿

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○ 自分または友達が「何を知らたがっているのか」をもとに、興味がわき、より深く自分の考えがもてる課題を設定しようとしている。	○ 設定した課題とそれを取りあげた理由に即した内容について調べ学習をし、その集めた情報を取捨選択しながら、自分の考えをまとめている。	○ 書くことの過程に関する語句（課題設定、取材、構成、記述、推敲、交流）について理解している。
○ 「「書く」の達人ノート」に記載された「何が知りたいアンケート」を参考に、より焦点化された学習課題を設定しようとしている。	○ 設定した課題に即した内容について調べ学習をし、その調べた情報や書いた内容が課題にあっているか、ずれがないかを考え、取捨選択して自分の考えをまとめている。 ○ レポートにまとめた自分の考えや調べたことを班で交流し、友達の意見を参考にしながら推敲し直している。	○ 書くことの過程に関する語句（課題設定、取材、構成、記述、推敲、交流）について理解し、具体的な内容について思い浮かべている。

7 単元に関して

○ 生徒の状況

- ・ 「書くこと」に対して苦手意識を持っているものの、いざ書くとなれば決められた課題をきちんとやり遂げることのできる生徒は多い。
- ・ 「書くこと」の単元で最初に行った「わかりやすく説明しよう」では、上手にマッピングをし、教科書の手順に従って書くことができた。しかし、課題設定については、教科書の例と同一の「お気に入りの場所」とした生徒が約5割おり、自由な発想をし独創的な文章を書くまでには至っていない。
- ・ 課題設定の場面から徹底的に考えること、また友達の意見を聞きながら推敲を重ねていくという経験は、今回初めての経験である。

○ 教材の価値

- ・ 本単元では、レポートを読む相手と同じクラスの仲間とし、課題設定は指導者からは特に条件を設けず、生徒自身が設定することにした。自分が設定した課題と、それを取り上げた理由をしっかりと考えることを大事にし、それを説明するためにどんな材料が必要かを選択・整理して伝える学習をするのにふさわしい教材である。

- ・ 本単元の前に学習した「シカの「落ち穂拾い」ーフィールドワークの記録から」を踏まえ、本教材でも図表を含めた材料を集めさせることにしたい。

○ 指導の工夫

- ・ 「書くこと」における「課題設定・取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」という一連の流れを意識できるように「書く」の達人ノートを作成し、指導する。この「書く」の達人ノートは年間を通じて使えるように、年間の単元を見通して作成する。
- ・ 各過程に、交流する時間を設け、多くの視点から検討することで文章がよりよいものになっていくことを体感させたい。
- ・ レポートの材料については読み手の興味・関心に応えられるように、事前に生徒にアンケートを取り、その結果を、「書く」の達人ノートに記載する。この記載を参考にし、レポートの課題設定をしていくこととする。さらに、これらの課題設定が、より焦点化された学習課題になるように、この問いでよいのか吟味させる活動を設定し、取材につなげていく。
- ・ 本時は、班の仲間の文章について、課題と記述した情報にずれがないかを判断しアドバイスする場面である。生徒は表記や表現についての推敲は経験があるが、課題設定と材料との一貫性について考えることは初めてであると思われる。どのように学習を進めていけばよいのかイメージをもつことができるように、「ネット犯罪から身を守るためにはどうすればよいか」について例を挙げ、学級全体で、ずれを見つける、ずれを修正するための改善策を考えていくこととする。ここでしっかり見通しをもたせることがその後のグループ内での推敲の成否を左右すると考えるため、生徒の理解度を確かめながら進めていきたい。

8 単元の学習と評価の計画

次	時	学 習 活 動 (評 価 方 法)
一	1	友達や自分が調べてみたいこと（知りたいこと）について確認し、その中から自由に選び、グループで意見を交流しながら「課題設定」する。 (観察) (ワークシート)
	2	「課題設定」についてもう一度（本当にその課題で自分の意見が書けるのか、図表などを使って説明ができる内容なのか）を考え、「調査の理由」について文章をまとめていく。 (観察) (ワークシート)
	3	必要な情報をインターネットなどを使って調べる。 (観察) (ワークシート)
二	4	集めた材料をもとに構成を考え、実際に下書きに書く。
	5	(観察) (ワークシート)
	6	友達の下書きについて、「課題設定」と材料にずれがないか、アドバイスをする。 (観察) (ワークシート) 【本時】
	7	友達と自分で練り上げたものをもとにして、清書を書く。 (観察) (ワークシート)
三	8	できあがった清書を互いに読み合い、どんな工夫がなされているか評価し合う。 (観察) (ワークシート)

※準備物

- ワークシート（「書く」の達人ノート）
- レポート用紙
- ふせん（二色 一つは大きめのもの）
- 例示用の模造紙，画用紙

9 本時の目標

- 読み手が知りたいことをわかりやすく説明するために、課題設定と内容にずれはないか、ずれがあるならば、どのような情報を載せればよいかを考える。

10 本時の展開

学 習 活 動	指導上の工夫・留意点	評価規準・方法
1 学習目標を確認する。	○ 相手の書いたレポートをよりよいものにするために、推敲していくという目的を明らかにする。	
友達の文章を読み、「課題設定」と内容にずれはないか、さらによい情報はないか改善策を考えてアドバイスしよう。		
2 どのような方法でアドバイスすればよいかを知る。 ・ずれを見つける ・さらによい情報(改善策)を考える 3 下書きを班で交流し、ふせんを使ってずれている点、不足している点、改善策等を出し合う。 (「書く」の達人ノート」p.9) 4 友達に付けてもらった付箋紙を読み、次の時間に修正をしながら清書を書くことを確認する。	○ ずれ、改善策の見つけ方について、課題と集めた情報、書いた内容がずれている例を用いてモデル学習をする。 <例> 課題：ネット犯罪から身を守るにはどうすればよいか。 課題設定の理由： 自分も使うし便利なのでどうすれば安心して使うことができるかしらべてみたいから 調べた内容： SNSの紹介、未成年のスマホの所持率、SNSの被害の事例 まとめの感想： ・とてもこわいと思った。 ・禁止すればよいのと思った。 ・生徒が参考にできるように、同じ色の拡大付箋紙、模造紙を黒板に貼りながら全体で考える。 ○ 「課題設定」と内容がきちんとあっているかについて注目させ、大きいふせんに意見を積極的に書かせる。 ○ 大きいふせんをつけたところに関して、意見を交流させる。(書いたものをさらに「言葉」で表現できるようにする) そのことに関して友達に質問を投げかけても良いことを指導する。	A：課題設定に対して集めた情報や書いた内容がずれていないかを判断し、具体的な改善策を提示している。 B：課題設定に対して集めた情報や書いた内容がずれていないかを判断し、およその改善策を提示している。
5 本時の学習目標を振り返り、自己評価をする。 (「書く」の達人ノート」p.10)	○ 本時で学んだことを振り返り、身についたことや課題点について意識させる。	